

ユダの手紙

一 イエス・キリストの僕またヤコブの兄弟であるユダから、父なる神に愛され、イエス・キリストに守られてゐる召された人々へ。

二 あわれみと平安と愛とが、あなたがたに豊かに加わるように。

三 愛する者たちよ。わたしたちが共にあずかっている救について、あなたがたに書きおくりたいと心から願っていたので、聖徒たちによつて、ひとたび伝えられた信仰のために戦うことを勧めるように、手紙をおくる必要を感じるに至った。四 そのわけは、不信仰な人々がしるべきに、唯一の君であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからである。彼らは、このようなさばきを受けることに、昔から予告されているのである。五 あなたがたはみな、じゅうぶんに知っていることではあるが、主が民をエジプトの地から救い出して後、不信仰な者を滅ぼされたことを、思い起してもらいたい。六 主は、自分たちの地位を守ろうとはせず、そのおるべき所を捨て去った御使たちを、大いなる日のさばきのために、永久にしばらくつけたまま、暗やみの中に閉じ込めて

おかれた。セソドム、ゴモラも、まわりの町々も、同様であつて、同じように淫行にふけり、不自然な肉欲に走つたので、永遠の火の刑罰を受け、人々の見せしめになされている。八 しかし、これと同じように、これらの人は、夢に迷わされて肉を汚し、権威ある者たちを軽んじ、栄光ある者たちをそしっている。九 御使のかしらミカエルは、モーセの死体について悪魔と論じ争つた時、相手のしりさばくことはあえてせず、ただ、「主がおまえを戒めて下さるように」と言っただけであつた。一〇 しかし、この人々は自分が知りもしないことをそしり、また、分別のない動物のように、ただ本能的な知識にあやまられて、自らの滅亡を招いている。二 彼らはわざわいである。彼らはカインの道を行き、利のためにバラムの惑わしに迷い入り、コラのような反逆をして滅んでしまふのである。三 彼らは、あなたがたの愛餐に加わるが、それを汚し、無遠慮に宴会に同席して、自分の腹を肥やしている。彼らは、いわば、風に吹きまわされる水なき雲、実らない枯れ果てて、抜き捨てられた秋の木、二、三分の恥をあわにして出す海の荒波、さまざま星である。彼らには、まっくらなやみが永久に用意されている。四 アダムから七代目にあたるエノクも彼らについて預言して言つた、「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。一五 それは、すべての者にさばきを行うためであり、また、不信心な者が、信仰を無視して犯したすべての不

